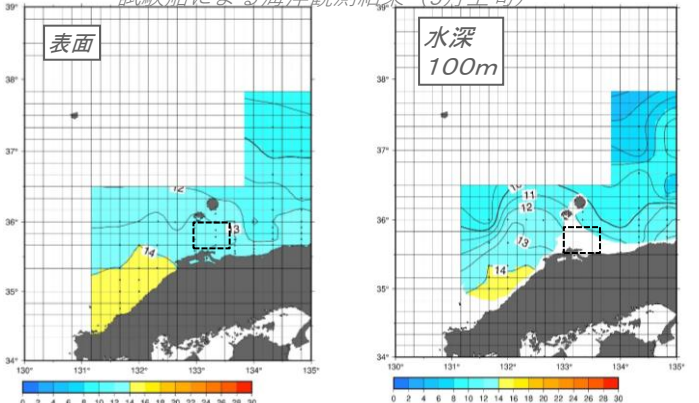
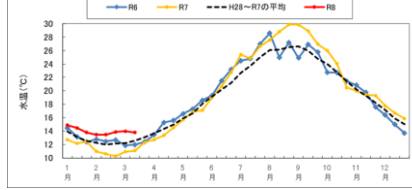


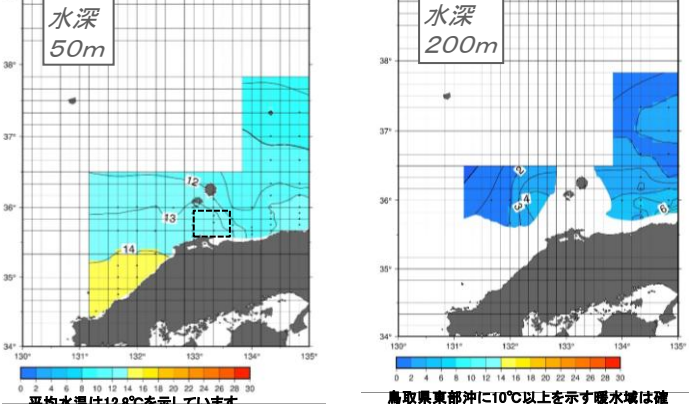


鳥取沿岸の水温
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)
3月中旬 13.8℃
平年より 1.2℃高め



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は13.2℃を示しています。
【前年差:+1.68℃、平年(直近30年)差:+0.85℃】

平均水温は10.4℃を示しています。
【前年差:-0.14℃、平年(直近30年)差:-1.26℃】



平均水温は12.8℃を示しています。
【前年差:+1.36℃、平年(直近30年)差:+0.43℃】

鳥取県東部沖に10℃以上を示す暖水域は確認されませんでした。

水産試験場

3月17日に令和7年度第2回境港地区漁業関係者会議(一社)漁業情報サービスセンター水産関係者との意見交換会をコラボ!



水産試験場の発表



漁業情報サービスセンターの発表

水産試験場の予報の概要

海況
・鳥取県沿岸部における表層の水温は、13.2℃を示し、前年より高めに推移すると考えられる(前年差+0.83℃)。
・鳥根沖冷水は、鳥根県沖N37°付近、山陰・若狭沖冷水は、鳥取・兵庫沖N36°以北に認められる可能性がある。
・鳥取県沖合域における対馬暖流の流路は、山陰・若狭沖冷水に沿ってN36°付近を東方向へ流れる可能性がある。

浮魚
スルメイカ(3～6月):近年同様に低調となり、前年並みで平年を下回る。
マイワシ(3～6月):前年・平年並み(直近の漁況は比較的好調に推移。1～2歳魚に相当する個体が水揚げされている。近年、資源量は増加傾向。)
マサバ(4～6月):前年・平年並み(直近の漁況は平年並み～上回る水準で推移し、2歳魚以上に相当する個体が中心に水揚げされている。近年、予報期間中に水揚げ主体となる1歳魚の動向を注視する必要がある。)
マアジ(4～6月):前年を上回り、平年並み(前年8～12月の漁況は11月を除き各月平年並み～上回る水準で推移。調査から得られる加入量指標値は近年、概ね横ばいで推移。)

底魚
ズワイガニ合計(2025年漁期予測)
前年並みの漁獲量となる見込み(2026年2月末で前年比114%の漁獲量)。若松葉の資源量の増加により、来漁期も松葉がにの資源回復が期待できるが、若松の小型個体の加入が少なく、今後の資源減少に備え、先を見据えた資源管理が必要。
ハタハタ(2025年漁期予測):前年並みで平年を下回る低調な漁獲が継続。
アカガレイ(2025年漁期予測):前年・平年並み。
ソウハチ(2025年漁期予測):前年並みで平年を下回る。
ベニズワイガニ(2025年漁期予測)
大和堆、隠岐西方・浜田西では漁獲サイズで資源回復傾向だが、新隠岐堆では厳しい資源状況が続く。近年、新規加入が見られないことから、長期的には資源が心配な状況。R7年9月からTAC管理開始。

令和7年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

3月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰・若狭沖冷水

鳥根沖冷水域	10℃以下の冷水域はN38°50'以北に認められました。
隠岐諸島北方の冷水域	10℃以下の冷水域は隠岐諸島周辺まで南下しており、N36°以北に認められました。
山陰・若狭沖冷水域	10℃以下の冷水域は鳥取県東部沖N35°55'以北に認められました。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れ、主流の一部は山陰・若狭沖冷水域に沿って東へ流れると考えられます。

水産振興課・漁業調整課

鳥取県藻場造成アクションプログラムⅣを策定！！

鳥取県内の藻場は、これまでに取り組んできたウニ駆除活動等により、食害対策への成果は見られるものの、近年の夏場の高水温が原因とみられる海藻の立ち枯れ、消失が見られるようになってきました。

そこで、専門家や漁業者などの意見を参考にし、3月12日付で「鳥取県藻場造成アクションプログラムⅣ」を策定しました。

これは、令和8～12年度の藻場造成の行動計画を記載したもので、「海水温の上昇に対応した藻場造成」を重点目標としています。

温暖化に対する新たな取り組みとして、高水温耐性アラムの作出、ツルアラムによる深場での藻場造成等、を実施する予定です。

鳥取県の漁場を将来に残していくためにも、漁業者の皆さまをはじめ、関係者の方々と一緒になって、海水温の上昇に対応した藻場造成に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

上:繁茂するアラム
下:立ち枯れるアラム

こちらのQRコードからダウンロードできます！

栽培漁業センター

藻場造成の高水温対策

<課題 高水温によるアラムの立ち枯れ>

県内で藻場造成を進めてきたアラムが、高水温により立ち枯れするという深刻な影響を受けています。令和7年8～9月には、アラムの生育限界水温29℃を超える日が4週間以上連続しました。その結果、各地のアラム場や、大山町周辺の海中林は、ほぼ消失する事態となりました(図1)。

<対策① 高水温耐性株の選抜・育成>

栽培漁業センターでは、この高水温下で生き残ったアラム株を確認、これらを親株として種を採取し、高水温耐性株の培養を行っています(図2)。今後も高水温下で生残した株の探索と優良株の選抜を継続し、高水温に強い藻場の造成を目指します。

<対策② 深場における藻場造成>

アラムよりも深場に生育するツルアラムについても試験増殖(泊:尾後鼻地先)を実施しています。今後は、ツルアラムの試験海域を拡大するとともに藻場造成技術の確立を進めていきます。

図1 令和7年大山町地先のアラム藻場
図2 培養の様子

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 千750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 千684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

千684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530